8 月 29 日のメッセージ

聖書：コリントの信徒への手紙一　15：　35 – 52

「朽ちるものでも」

弟子たちが、そして私たちが忍耐して究極的に待ち望んでいるもの、それは死者の中からの復活です。しかし、死者の復活を自分の知識の延長で捉えようとするのは誤りです(「愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を得ないではありませんか。」コリントの信徒への手紙一 15:36)。安易で、簡単で、わかりやすい救いを求めるから、自分の理解の範疇に収めようとしてしまうのでしょう。

私たちは、たとえ望んだとしても、自分の人生を自分の力で長らえさせることはできません。全ては神によって造られたものです(「主よ、御業はいかにおびただしいことか。あなたはすべてを知恵によって成し遂げられた。地はお造りになったものに満ちている。」詩編 104:24)。神の被造物にはそれぞれの生の終わりが定められ、朽ちるべき存在として生かされています。

神はこの、朽ちるべき存在である私たちに新しい息を吹き入れられ、新しい体として復活させてくださるのです(「死者の復活もこれと同じです。蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちないものに復活し、蒔かれるときは卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれるときには弱いものでも、力強いものに復活するのです。」コリントの信徒への手紙一 15:42-43、「あなたは御自分の息を送って彼らを創造し／地の面を新たにされる。」詩編 104:30)。にわかには信じがたいことですが、神の力は人間の想像を遙かに超えます。私たちが想像できる未来を遙かに上回る神の国を実現されるのです。

今、与えられている人生を生ききった先に、その未来はあります(「最初に霊の体があったのではありません。自然の命の体があり、次いで霊の体があるのです。」コリントの信徒への手紙一 15:46)。

神の力を知り、神の思いに聞き、神が私たちをそれほどまでに愛しておられるということがわかっているならば、私たちの歩みは変わっていくはずです。自分さえ良ければという自己中心的な願いではなく、神の思いが実現されるための願いを持つでしょう(「神はこう言われた。『あなたは自分のために長寿を求めず、富を求めず、また敵の命も求めることなく、訴えを正しく聞き分ける知恵を求めた。』」列王記上 3:11)。

天上ばかりでなく地上でも神と共に歩もうとするでしょう。持ち物を売り払ってでも、神の究極の希望と共に生きようとするでしょう(「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」マタイによる福音書 3:44、「高価な真珠を一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。」3:46)。

自分の聞きたい言葉だけを聞くのではなく、神の言葉一つひとつに聞こうとするでしょう(「そこで、イエスは言われた。『だから、天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている。』」マタイによる福音書 13:52)。

その歩みは、人間の力だけでは成し得ないかもしれませんが、そのために神は私たち一人ひとりに聖霊を注いでくださいました。天上での希望を抱くばかりではなく、地上の歩みも新たにされているのです。